令和５年度第５回　感染症発生動向調査協議会

令和５年８月２３日

月番：加藤　達雄

１　前月の感染症発生動向について（2023 年第 27 週～30 週・7 月）

＜全数把握対象疾患＞

・　結核は 18 例の報告があり、80 歳以上 7 例に対して、69 歳以下が 11 例と多く、10 歳代も２例見られている。累計は、対前年度 85.3%と減少している。

・　レジオネラ症は、10 例と多くの報告があった。

・　梅毒は、10 例の報告があり、女性も 20～30 歳代の 3 名にみられた

＜定点把握対象疾患＞

・　新型コロナ感染症は、29 週に定点当たり 20.7 まで増加し、30 週にやや減少した。各年代に、まんべんなく発症している。

・　RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナといった小児の感染症はピークアウトした印象である。

２　検討すべき課題

・　新型コロナ感染症は、5 類に変更後、増加傾向が続いている。以前から EG.5 系統が 多数検出されている。

・　「新型コロナウイルス感染症に関する住民への注意喚起等の目安について」

＜事務局から＞

・　RS ウイルス感染症及びヘルパンギーナの流行について（継続）

３　情報提供（月番委員専門分野から）

・　新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第 10.0 版

４　その他（感染症対策推進課から）

・　新型コロナウイルス感染症の入院者数等の定点把握について

・　小児の原因不明の急性肝炎の保健所における調査の終了及び研究班への協力依頼について

＜検討結果＞